

8-4-1 統括技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

偶数月に6回開催した。開催しない奇数月もメール等を活用し、協議と情報交換を実施した（各委員会月次報告、技術部会・常任理事会の審議・指示事項の周知・対応等）。

(2) 未来塾検討テーマへの対応

a) プロポーザル拡大に向けた対応

斜め象限図の運用と合っていない等、既存の総合評価発注案件のうち、プロポーザル発注が望ましい案件を抽出した。その上で、斜め象限図の適切な運用を図ることを目的としたチェックリスト(案)を作成した。この他、業務難易度以外にもプロポーザル方式が望ましい業務種別の検討や、コロナ禍におけるプロポ実施事例を参考とした簡素化手法の検討を行った。

b) 施工計画・仮設設計における課題対応

歩掛と作業の乖離がある等の不適切な事例を全国支部より抽出し、課題の整理を行った。その上で、設計業務委託における施工計画、仮設設計において求められている成果品の位置づけ（工事発注に必要な図書であること）や、標準歩掛に絵示されている仮設設計は任意仮設を対象としたものである等、今後、受発注者間で合意したい基本的な考え方、協議の方向性について共有した。

c) 施工条件明示チェックシートの運用

工事発注が予定されている実際の設計業務において「施工条件明示チェックシート」を作成、その後の運用状況についてモニタリングを実施し、整理を行った。今後も協会として積極的な活用を提言し、受発注者間での作業軽減・効率化を推進する。

(3) テーマ設定型技術公募への対応

新技術活用の更なる促進を目的としたNETIS活用方式の1つである「テーマ設

（技術公募）」に対し、協会としてテーマに関するニーズ（テーマ名、目的、想定される技術）を集約し、提案した。

(4) 国総研・土研との意見交換会の開催

統括技術委員会（専門委員会含む）の活動実績や今後の共同研究に関する具体案等の話題提供を行った。土研・国総研それぞれとDX推進の取組について情報交換を行い、新技術活用やBIM/CIM納品化の検討を行った。

(5) 共通仕様書、標準歩掛の改訂要望の提出

改訂要望は項目が多岐に渡るため、改訂の優先順位を設定した。

(6) テレワークガイドライン(案)の作成

令和3年2月協会HP公開「業務におけるテレワークガイドライン(案)」の素案を作成した。

(7) 統括技術委員会の横断的活動（主要事項）

a) 国総研研究評価委員として、国総研研究に対する意見具申を行った。（年2回開催）

b) 生産性向上WG、維持管理対策WG、業務体系WG、公益活動WG、業務研究発表会WGの活動を実施した。

c) 「業務研究発表会」の企画・運営に参画し、令和2年9月15日にWEB開催にて実施した。（論文応募数102編）

d) 雑誌「土木施工」の編集委員への参加

2. 次年度の活動について

(1) 事業計画に基づく技術委員会の定例的活動

(2) 分野横断的な諸テーマの検討

(3) 技術部会からの指示事項の検討

(4) 3技術委員会からの要望検討、上位機関への上程

(5) 業務研究発表会開催と他行事の対応・支援

(6) NETIS関連の対応

(7) RCCM 自主学习・教材の作成・更新

(8) 国交省等調査への対応

(9) 土研、国総研との技術交流

(10) 白書・対外活動への支援、他

（技術委員会委員長 菅原 正道）